

令和3年度 リーベルネットワーク合同研修会

アンケート 兼 質問票 まとめ

○ご意見・感想

1. 障害福祉事業所

- ・障がいある子ども達も、この地域で沢山の友達と一緒に成長してほしい。その為にも教育と福祉の連携は必要。
- ・計画相談業務では、小学校へ就学する時、小・中・高校卒業時、節目節目で丁寧に繋いでいくことが大切。
- ・先生方が参加しての合同研修会なのでもう少し、意見交換がほしかった。
- ・社会資源の説明、事例紹介で対面ではない分、聞いているだけだと長時間は厳しい。
- ・事例をもとに小グループで意見交換の機会があれば、より良い研修になる。
- ・学校の先生との連携で、日々変わる児童の状況や課題を共有していくことで、将来の選択肢を広げる可能性を感じた。
- ・学齢期の中に将来必要な成功・失敗体験を積める環境を整えるには何をすべきか、考えるきっかけになった。
- ・事例から子ども、家庭、関係機関、学校が共通した意識で支援していく必要性を再認識。
- ・研修会に参加し、知識、意識の向上が必要。

2. 教育機関（抜粋）

- ・校内委員会等で学校の方針を定めた上で、関係機関と連携を進めていくことが大切であることを改めて認識。
- ・事例では、今の課題だけを見るのではなく、その背景、環境、今後の将来を見据える必要があると感じた。
- ・教室の中で「目立たない子」にも、きちんと目を向けなければと、改めて勉強になった。
- ・外部との連携、切れ目ない支援という意識は学校現場では具体的なものに繋がっていない。今回の連携した支援の全体像紹介は、支援学級担任などの悩み、心配される状況が、解消へ一歩でも進むことに繋がると思う。
- ・気になる子、親、家族を孤立させることなく、子ども、親どうし繋ぐ支援は学校が中心となって、そこに様々な機関が緩やかに絡みながら、あたたかく見守る支える地域づくりに繋がっていききたい。
- ・子どもの障がいにどのように対応すべきか考え、実践していくために、一人学校におい

て迷ったり苦しんだりするのでなく、相談して解決するための社会資源があることを知り、心強く思った。

- ・障害福祉と教育機関の連携が具体的にわかり、有意義な研修会だった。各機関の資料もあって、それぞれの取組がよくわかった。このような研修を継続していくことで、障害福祉や特別支援教育に対する視野を広く持つことができる。
- ・子どもを支援する機関が、こんなにあることを知らなかった。子どもだけでなく、その家族も支援していくことで、子どもの自立に繋がることがわかった。
- ・子どもを取り巻く環境が複雑かつ困難な事例が多く、学校だけで解決するのは不可能なことがほとんど。本校も様々な状況の子どもに対して、関係機関と連携を図ることで改善が見られた事例がある一方、本人、家族の理解が得られずに取り組みが進まない事例もある。事例3は、どの学校でも起こりうること。学校としては、子どもの特性に応じた教育を行うことで、子どもの自立、発達を促していけることを丁寧に説明するとともに関係機関に積極的な協力を働きかけたい。
- ・今回のように八女市全体で共有することによって、より地域と学校が連携して支援体制を構築できるのではないか。
- ・様々な関係機関の取組は、学校にはあまり知られておらず、今回の紹介で認知度も上がり、相談や支援など今後、有効活用されるのではないか。

○質問事項

質問：デュナミスを初めて知りました。場所はどこでしょうか。ほかの施設について知らない学校関係者は多いと思います。

答え：障害者就業・生活支援センターデュナミスは下記ホームページより

<https://www.k-fukushikai.or.jp/service/dynamis/>

ほか施設は下記ホームページの福祉マップ（八女地区版）に掲載しております。

liber-yame.net

質問：あおぞら、よろず屋、リーベル、相談内容によって、どこに相談した方がよいかがあれば、教えていただきたいです。

答え：

- ・社会資源の説明でもあったように、気軽に相談できますので、どこに相談されても良いと思います。そこから必要に応じて専門機関につながっていきます。

先生方から親子さんに紹介される時には、漠然と「相談に行かれては」と勧められるのではなく、この部分で困っているなど具体的に困っていることが明確になって、相談につながりいただくことで、相談が受けやすくなります。

掲載期間：令和3年8月25日（水）～9月30日（木）